SOMPO福祉財団 NEWs

Sompo Welfare Foundation

●自動車購入費助成　助成先を決定
●住民参加型福祉活動資金助成　助成先を決定
●ジェロントロジー研究助成　対象者を決定
●介護福祉士養成のための奨学金給付　対象者を決定
●2021年度住民参加型福祉活動資金助成　助成団体からの報告
●財団からのお知らせ

発行者　公益財団法人SOMPO福祉財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1　損保ジャパン本社ビル　TEL：03-3349-9570　FAX：03-5322-5257
https://www.sompo-wf.org/　Eメール：office@sompo-wf.org

2022年度 vol.2

2022.11.25発行

自動車購入費助成　助成先を決定

自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体にとってニーズの高い自動車購入の資金を支援する事業です。本年度は西日本地区を対象に2022年６月から７月にかけて公募したところ、86件の応募があり、以下の10団体に１団体150万円、総1,500万円の助成を決定しました。

所在地	団　体　名	主　な　事　業
京都府	NPO法人 こども未来	重症心身障害児も、医療的ケア児も受け入れるインクルーシブな小規模保育園
大阪府	特定非営利活動法人 ほっと。	親子での療育や、個性を尊重した放課後等デイサービス、不登校児の個別支援など
大阪府	特定非営利活動法人 あのね	パンや弁当の製造、販売の就労継続支援B型で利用者の日中活動の充実、スキルアップ
兵庫県	特定非営利活動法人 つつじ会	主に精神障害者の作業（安全バーの製作、草刈刃の袋入れ等）を中心に活動の場を提供
島根県	特定非営利活動法人 サポートセンターどりーむ	就労継続支援Ｂ型で、障害者のアートの才能を発掘・育成しアートのビジネス化を促進
岡山県	特定非営利活動法人 東備	自立訓練事業で生活のスキルアップ、就労継続支援B型で経験を積み、就労自立をめざす
山口県	特定非営利活動法人 山口ウッドムーンネットワーク	障害の有無や種別に分け隔てなく、共生できる社会の実現をめざす
高知県	特定非営利活動法人 みらい予想図	重症児たちが、住み慣れた地域で笑顔で安全に過ごせる居場所づくりと母親や家族の支援
福岡県	特定非営利活動法人 アベル	施設内での軽作業やアパートの清掃作業の就労訓練、除草作業等の就労支援
沖縄県	NPO法人 ゆくり	まちづくりの推進を図る活動（障害福祉サービス事業、介護ボランティア事業）









住民参加型福祉活動資金助成　助成先を決定

住民参加型福祉活動資金助成は、地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を支援する事業です。
本年度は、東日本地区を対象に2022年6月に公募したところ、74件の応募があり、以下の16団体に合計469万円の助成を決定しました。

所在地	団 体 名	助成する事業の概要
青森県	**みんなの居場所にこにこ**	学習支援、高齢者の健康体操、食を通じての居場所づくり
宮城県	**フードバンク仙台**	困窮を解消する生活相談と新しい食糧支援活動
宮城県	**つるがや元気会**	大震災に負けず再び明るく元気な鶴ケ谷を！（まちづくり）
秋田県	**ふくち共助組合**	草刈り・雪降し等の共助活動（備品整備）
秋田県	**Cafe Chotto ちゃっこ**	多世代の地域住民を巻き込んだ集いの場づくり
福島県	**中央台地区有志の会**	避難者・帰還者・地域住民とのコミュニティ形成・交流会開催
東京都	**カフェ０６推進委員会**	コミュニティサロン　カフェ０６（三周年アニバーサリーイベント）
東京都	**子育て支援ＳＡＮの会018**	ひろばの活動及び３Ｒ活動
東京都	**おもてなし食堂**	おもてなし食堂（子ども・地域食堂）
東京都	**勉強お助け教室由木教室**	諸事情により学習支援が必要な小中学生へのボランティア勉強教室
東京都	**スポット舟渡**	ファーム・10の筋トレ体操・カフェ
東京都	**バラエティクラブ**	拠点の整備拡充（椅子、テーブル、冷蔵庫などの備品購入）
新潟県	**新潟障害文化地域推進機構**	ジョブコミニケーション
新潟県	**小林コミュニティ協議会お助け隊こばやし**	生活支援（除雪作業の支援）
三重県	**子どもサロンANTO**	子どもサロンANTO（玩具、工作用品などの備品整備）
三重県	**いこいっこ**	いこいっこ設備更新計画（冷蔵庫購入）



<社会福祉事業（自動車購入費助成、住民参加型福祉活動資金助成）>の選考会の様子



<社会福祉諸科学事業（ジェロントロジー研究助成）>の選考会の様子

ジェロントロジー研究助成　対象者を決定

全国を対象に４月から７月にかけて公募したところ、28件の応募をいただきました。高齢者を取り巻く諸問題の研究や解明に取り組む、以下の16名の対象者に助成を決定しました。

対象者名	助成する活動の名称
宇良　千秋 東京都健康長寿医療センター研究所・研究員	認知症共生社会における地域資源としての寺院の可能性：お寺での介護者カフェの効果
王　聰 東京大学大学院農学生命科学研究科・大学院生	原発事故被災地における高齢者家計の現状と課題に関する社会福祉学的研究 ー福島県を事例としてー
春日　彩花 大阪大学大学院人間科学研究科・助教	「知恵」の形態と生活文脈の関連　―人生を通じて発達する「知恵」とは何か？―
辛島　順子 実践女子大学生活科学部食生活科学科・准教授	地域包括支援センターにおける地域在住高齢者の低栄養予防・改善への取り組み ～栄養管理の実際と管理栄養士との連携に焦点を当てて～
菊地　眞海 北海道大学大学院保健科学院・大学院生	「高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観」測定ツールの開発と理論的検証
久米　裕 秋田大学・教授	社会的フレイル改善に関する高齢期の生活リズム構成要素を明らかにする包括的研究
齋藤　崇志 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉研究部・研究員	高齢者の視覚リハビリテーションに関するニーズをアセスメントするための指標の開発
清水　佑輔 東京大学大学院人文社会系研究科・大学院生	高齢者への否定的な規範的ステレオタイプが広く存在する。本研究では日本の規範的ステレオタイプを幅広く調査し、その軽減策を示す。特に高齢者の社会参加に着目し、その利点を人々に伝えることの効果を実証する。
庄嶋　健作 兵庫医科大学医学部・助教	サクセスフルエイジングを支える幸福感に寄与する要因の探索
関野　明子 桜美林大学大学院老年学研究科・大学院生	別居介護を選択・継続していくプロセスと、在宅での別居介護を断念する要因を検討し、別居介護の限界点を明らかにして、別居介護支援体制の構築につながる基礎的な知見を獲得するための調査研究
田島　明子 湘南医療大学・教授	介護老人福祉施設における高齢者と動物の共生のための支援技術とケア文化 －介護職員へのインタビュー調査とフィールドワークからの考察－
谷田　純 大阪大学大学院情報科学研究科・教授	高齢者に生きがいをもたらす演劇活動を促進するため、先端的光技術の応用による演劇活動支援を導入し、その有効性を明らかにするとともに、高齢者の社会活動寿命を延ばす新たな手法としての可能性を示す。
平山　順子 白百合女子大学生涯発達研究教育センター・ 研究員	高齢期夫婦のパートナーシップ：「仲の良い」夫婦と「仲の悪い」夫婦」は何が違うのか？なぜ悪くなるのか？
堀　恭子 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科・ 特任教授	心理職には多職種協働が求められることが多い。「心理面接」や「心理アセスメント」だけでなく、個人や組織を環境との相互作用内で理解して支援することの重要性を研究によって明らかにすることをテーマとしている。
三宅　沙侑美 岡山大学大学院社会文化科学研究科・大学院生	介護士が介護サービス利用者と信頼関係を構築するためのソーシャルスキル －デイサービスセンターにおける対人関係形成に関する心理教育法の開発に向けて―
森　裕樹 兵庫県立大学大学院環境人間学研究科・ 大学院生	元気高齢者の男性にアプローチした通いの場の包括的モデル構築と社会実装

介護福祉士養成のための奨学金給付　対象者を決定

全国の介護福祉士を目指す専修学校、福祉系高等学校の学生・生徒向けに募集をおこない、12名の対象者に助成を決定しました。





昨年給付した奨学生も頑張って介護福祉士を目指して学校生活を送ってくれています。




●2021年度住民参加型福祉活動資金助成　助成団体からの報告




＜ぐるーぷ・ちえのわ＞
地域のひろば事業のための多目的交流スペース開設準備事業



＜なんぶひらがり食堂＞
誰でも参加できる地域に開かれたオープン型「なんぶひらがり食堂」




＜まちナカ・コミュニティ 西荻みなみ＞
子どもプロジェクト 駄菓子屋屋台の製作




＜NPO法人 ほっとすぺーす・つき＞
「誰もがほっとする居場所」総合事業

◆財団からのお知らせ

世界アルツハイマーデーおよび世界アルツハイマー月間の取り組みに対する後援を行いました。
９月21日には損害保険ジャパン本社ビルもライトアップされました。





日本障害フォーラムの「障害者権利条約　第１回建設的対話報告会」の講演が行われました。
参加者は、会場・オンラインを含めて1,000名を越し、開会時と閉会時に助成した財団の紹介がされました。




『子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2022』に30万円の助成をしました。
子ども虐待防止の象徴であるオレンジリボンをたすきに仕立てて、駅伝方式で神奈川・東京４箇所をスタートとしてオレンジのたすきを繋ぎながら、横浜の「象の鼻パーク」を目指して参加者がつないでいくものです。



